

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 15 ーのんびり新幹線紀行！ー

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47都道府県を踏破済）。

はじめに

出張でよくお世話になる新幹線。目を見張る速さと運行時刻の正確さは世界に誇るものです。ただし、新幹線はどうもビジネスライクで旅情が感じられないと思われるかもしれません。確かに「のぞみ」や「はやぶさ」のように、主要駅しか停車しない速達性を重視した列車の車内は、ビジネスで利用する乗客であふれ、この旅行記で取り上げるローカル線の列車とは対極にあるといえます。しかし、停車駅の多い列車では、途中の駅で速達列車に進路を譲るために数分間の停車時間が設けられており、のんびりとした旅が楽しめます。今回は、フーテン旅行記では異色の新幹線の旅をご紹介します。

1. 新幹線の各駅停車！山陽新幹線「こだま」

最 高速度 300 キロ
で「のぞみ」が行
き交う山陽新幹線。
2011 年の春には九州
新幹線とも接続し、
「みずほ」や「さくら」
に乗れば新大阪駅から
4 時間程度で鹿児島へ
行くことができるよう
になり、西日本の主要
都市を結ぶ高速鉄道と
して、発展を続けています。



山間の駅で小休止。九州新幹線への直通列車（右）に道を譲ります。

そんな新幹線にも、ゆったりとした時間の流れる列車があります。それが今回ご紹介する「こだま」。ご存知のとおり、東海道・山陽新幹線の中では最も遅い各駅停車ですが、ビジネスマンを満載して駆け抜ける「のぞみ」とは異なり、のんびりとした旅を楽しむことができ、さながら「新幹線のロー



時折、車窓から瀬戸内海の島々を眺めることができます。徳山駅で撮影。

カル列車」といったところ
でしょう。

山陽新幹線の「こだま」
は、新大阪より東の東海道
新幹線へは直通せず、ほと
んどの列車が山陽新幹線専
用の 8 両編成で運行されて
います。特に日中の「こだ
ま」の大半は、「ひかりレ
ールスター」と同じ車両で運
行され、快適な旅を楽しむ

ことができます。なぜこの車両が快適かというと、新大阪側の 5 両（そのうち 3 両が自由席）の座席は通路の左右に 2 列ずつ配置されており、グリーン車並みの横幅があるからです。「のぞみ」の普通車は通路を挟んで 3 列と 2 列、合計で横に 5 列の座席が並んでいますが、特に混雑してくるとやや左右が窮屈になります。出張の際に満席の「のぞみ」に乗って、3 列側の中央の座席に乗りしてずいぶん疲れたという経験をされた方もいらっしゃるかもし



旅の楽しみは駅弁！写真の小倉駅の「ふくめし」にはフグの炊き込みご飯の上にフグのから揚げなどが載っています。



座席が左右に 2 列ずつ並ぶ新大阪寄りの自由席車内。グリーン車並みの幅がある座席は快適です。

れません。その点、「こだま」は左右の座席幅が広く疲れることはありません。なお、子供に人気の 500 系は、指定席を除き横 5 列の配置ですが、いずれにしても車内がよく空いているので、窮屈な思いをすることはありません。

新大阪から博多に行く場合、「のぞみ」であれば2時間半程度で到着しますが、「こだま」はさらに2時間ほど余分に時間がかかります。途中の駅で10分近く停車して、後続の速達列車を先に行かせることもしばしばです。そんな時は、乗り遅れないように発車時間に注意しながら、駅の売店をのぞいてみましょう。地元の駅弁や、名産品を売って



待つ人もまばらな小倉駅のホームへ入ってきた新大阪行き「のぞみ」。時間をかけてすべての駅に止まっていきます。

おり旅気分に入れます。地元の食材がぎっしり詰まったお弁当をつまみながら、ぼんやりと車窓を眺めたりしていると、疲れはあまり感じません。空いた車内で仕事をするもよし、ぐっすり寝るもよし、本を読むもよし。普段は多忙でゆったりできない方も、逆に少し長い移動時間にくつろいでみてはいかがでしょうか。「のぞみ」では味わえない独特な旅情、山陽新幹線の「こだま」には、鉄道が本来持っている魅力が残っているのかもしれない。

(岡山大学職員組合 組合だより 163号より加筆のうえ再掲)



今でも子供や鉄道ファンの人気が高い500系。東京への乗り入れはなくなり、8両編成に短縮されて山陽新幹線の「こだま」で余生を送っています。

2. 新幹線でちょっとしたグルメを！東海道新幹線「ひかり」

東京へ出張するときにお世話になるのが新幹線。「のぞみ」に乗ると、いつもビジネス客で座席はびっしりと埋まり、何となく味気ないように感じてしまいます。そんな新幹線での移動に疲れたときは、「ひかり」を利用



16両の長い編成を従えて夕暮れの岡山駅に当駅始発の「ひかり」が入線します。東京までは長駆700km余り、4時間少々のロングランが始まります。

してみてもいいでしょうか。山陽新幹線から東海道新幹線へ直通する「ひかり」は、ほとんどが岡山駅始発で途中の名古屋までは空席が目立ち、車内でゆったりとくつろげます。静岡県内に入ると「のぞみ」が通過する浜松や



静岡駅の売店。たくさんの駅弁が並んでいて迷ってしまいますが、乗り遅れにはくれぐれもご注意ください。

静岡から乗車する人が増え座席が埋まることもあります。静岡から東京までは1時間程度ですので、それほど苦痛にはなりません。

そして「ひかり」を利用することで得られる最大のメリットは、途中の駅で地元の駅弁を買えるということです。2017年春に改訂された時刻表によると、岡山始発の「ひかり」

の大半は浜松と静岡の両駅でそれぞれ約5分ずつ停車します。発車時刻をよく確認してからホームへ降りて売店をのぞくと、地域色豊かな駅弁が並んでいます。浜松駅は言うまでもなく、ウナギを使ったお弁当が人気です。一方の静岡駅にも、駅弁ファンの間で有名な二つの名物駅弁がありますのでご紹介しましょう。



明治30年発売の「元祖鯛めし」。魚のそぼろが載った、甘辛くて優しい味のご飯です。

一つは「元祖鯛めし」。発売元の「東海軒」のホームページによれば、明治30年に発売された超ロングセラーだそうで、甘辛い魚のそぼろが醤油で味付けされたご飯の上にふんわりと載っており、シンプルですが飽きのこない逸品です。おかずが付いた「特製鯛めし」も用意されています。

もう一つは「サンドイッチ」。サンドイッチは車内販売で買えないかと言われそうですが、静岡駅のサンドイッチは明治



明治33年から販売されている静岡駅のサンドイッチ。フランス国旗に似た鮮やかな箱も印象に残ります。

33年に発売され、駅で売られているサンドイッチとしては日本最古の商品だということです。ハムサンドと卵サンドが三つずつ入った極めて簡素なものですが、パンがしっかりと



新幹線から眺める富士山。車窓からカメラを向ける人も多く、やはり日本一の山だと感じます。

していて美味しく、「さすがに長いこと愛されてきただけのことはあるな!」と納得する味です。

さらにありがたいのは、「元祖鯛めし」が700円、「サンドイッチ」は320円（いずれも2017年11月現在、東海軒ホームページによる）とお財布に優しい価格であることです。お弁



浜名湖も車窓の楽しみです。新幹線だとあっという間に通過してしまいます。



夕暮れの相生駅で「のぞみ」の通過待ち。愛嬌ある顔の700系が「ひかり」の主力でしたが、最近は徐々に数を減らしています。

当を広げて、関ヶ原や浜名湖、富士山を眺めながら老舗の駅弁をいただくのも一興です。東京へ向かう場合、「のぞみ」よりも時間は30分から1時間程度、余分にかかりますが、移動の疲れはあまり感じなくなるかもしれません。

(岡山大学職員組合 組合だより175号より加筆のうえ掲載)

おわりに

今回は新幹線を使った旅行記をお届けしました。ローカル線の旅行は、日ごろの忙しさを忘れてのんびりと車窓を眺め、地元の駅弁などをつまむことが醍醐味ですが、新幹線にもそういった旅情が感じられる機会が残されています。日頃、時間に追われて新幹線を使うことが多いですが、たまには少し早く出発して、車内で有意義に時間を使ってみるのもいいかもしれません。